

科 目 名

歴史学と課題Ⅱ History Ⅱ

1年 後期 2単位 選択

佐藤伸二

概 要

21世紀は、一方での国際化、他方での分権化の時代である。地球規模で考え、地域に根ざして活動する事が期待されている。自国の歴史を知り、他国の歴史を知ることが国際人の必須の条件である。

現在の目で過去を見、過去を通じて現在を知る、これが歴史を学ぶことである。歴史像は時代とともに変化する。これは、研究の進展だけでなく、社会の変化とともに過去の事実の持つ意味が変わるからである。

本講では日本の歴史を地域や社会集団ごとに、多様な生活と文化を具体的に描き、国際社会の中でとらえる。このことによって、ややもすれば歴史に対して無関心になりがちな理系の学生諸君に、日本の歴史への関心を呼び起こし、時代を切り開いた人々の努力とエネルギーを説く。

目 標

- 1) 日本の近世・近代史について理解を深める。
- 2) ヨーロッパ・東アジア世界と日本の交流を考えさせる。

授業計画

第1回 日本近世の特質

世界史には近世はない、日本近世の三大特質、兵農分離＝身分制社会、石高制、海禁政策を軸に近世について考えさせる。

第2回 江戸幕府の成立と支配

秀吉・家康の統一、将軍の全国支配と鉢植え大名、国王としての将軍、大名の種類、大名の領内自治支配など政治的問題を学ぶ。

第3回 近世の大開発と都市・農村

地域統一と灌漑施設、産業の発展と名産、城下町江戸、天下の台所大阪、工業都市京都の発展を取り上げる。

第4回 近世農村の生活

年貢負担者としての農民の役割、農書を読む人々、農具の改良、金肥拡大を取り上げる。

第5回 海禁と貿易港

海禁の進行、近世初期の貿易、近世に開かれていた四つの港＝対馬・長崎・琉球・蝦夷地の実態、オランダ風説書の役割を学ぶ。

第6回 ヨーロッパ諸国の接近＝外患

ロシアの蝦夷地進出、アヘン戦争の脅威、鎖国論、ペリーの浦賀来航、日米修好通称条約の問題点を学ぶ。

第7回 小テストと講評

今まで学んだことを整理させ、基本的な用語を確認させる。

第8回 明治政府の新政治

領土の土地人民から日本の人民へ、廃藩置県、近代的政治体制の成立を学ぶ。

第9回 文明開化と国民意識

文明開化の意味、その必要性、国民の創出、国民の義務を取り上げる。

第10回 産業の近代化と日清・日露戦争

上からの近代化、大日本帝国憲法、日清・日露戦争、植民地をもつ国、一等国意識を取り上げる。

第11回 大正デモクラシー

大正デモクラシーの具体像、民衆の自己発見と大衆文化、「主婦」の誕生などを取り上げる。

第12回 敗戦と戦後民主主義

満州事変から太平洋戦争へ、ポツダム宣言、敗戦と占領軍、日本国憲法と平和主義を取り上げる。

第13回 55年体制と高度経済成長

冷戦と東アジア、55年体制の成立、高度経済成長と生活の変化、沖縄の日本復帰を取り上げる。

第14回 小テストと講評

今まで学んだ事を整理させ、基本的な用語を確認させる。

第15回 定期試験

授業方法

中学・高校で学んだことを随時質問をしながら講義によって授業を進め、テキストの関連部分を音読させる。

学習到達度の評価

- ① 授業中に教員より質問し、理解度を確認する。
- ② 授業に関連したことについて、レポートを書かせて発展学習を促す。
- ③ 2回の小テストと学生からの質問で到達度を確認する。

評価方法

定期試験（80点）・小テスト（10点）・レポート（10点）の成績によって判定する。

教 材

テキスト：荒木敏夫・保坂 智・加藤哲郎『日本史のエッセンス』有斐閣（1997）